



音楽評論家・作詞家

湯川 れい子

設立20周年、誠におめでとうございます。

このサウンドヒーリング協会が設立された2001年は、日本の音楽療法の歴史に大きな意味があった年だったと記憶しています。

それまで、古代イスラエルの時代からおよそ2000年。音楽には人間の心身に働きかける力があるに違いないと、洋の東西で研究されてきたことが、ひとつの形となって、ここ日本では日本音楽療法学会が誕生。聖路加国際病院理事長(当時)だった医師の日野原重明先生が初代理事長となり、やがて私もこの学会の理事となって、今日に至っています。

そしてやはり同年に、このサウンドヒーリング協会が誕生しているのですが、当時、音楽は耳に聞こえる「音」「音楽」として、楽器や音声、歌詞の言葉などが、人間の情動に働きかけると考えられていましたから、サウンドヒーリングが目指す皮膚や骨、細胞に、「音」そのものが振動として働きかける体感音響振動というコンセプトは、なかなか理解されにくかったのではないのでしょうか。

しかし、「音」は地球創生の生命が発生したその瞬間から、水や空気の中に存在し、生命の誕生そのものを促したエレメントであり、人間だけでなく、あらゆる生命と環境に作用してきた存在であるという、音楽の本質そのものを追求。文化、芸術、科学、医学、教育など、さまざまな角度から解明のためのアプローチをしてきた実践が、このサウンドヒーリング協会の20年の実績と信頼となって、今日があるのだと思っています。

ですから昨年来、突然、地球全体を襲った新型コロナ・ウィルスが、私たち人類に発している警告や、明日に生き抜くための知恵も、きっとサウンドヒーリング協会はお持ちなのではないかと、私は確信して、今後ますますのご活躍を期待しております。

ピアニスト
ウィーン国立音楽大学教授

大塚 めぐみ

サウンドヒーリング協会が設立20周年を迎えられたとのこと、心よりお慶び申し上げます。

中村泰治会長様、喜田圭一郎理事長様はじめ協会に関わる皆様方のご活動とご尽力が、こうして調和し、輝かしい響きと喜びの集いの場を、私たちにも届けて下さいますこと、感謝につきません。

自然と音楽があれば、幸せでいられる私が、「心の香るとき〜Scent is in Your Heart」というオリジナル楽曲のCDアルバムリリースにあたり、喜田様と初めてお話しさせて頂いた時のことは、とても印象に残っております。言葉やその響きの中に精神が宿っていて、私の音楽をこのように感じ、受けとめてくださる方がいるのだと、インスピレーションを受けたことを覚えています。その後、喜田様を通じて協会に関わる方々とも交友を持つ機会が与えられ、安らぎはここにある、と改めてこの協会への賛同の意を持ちました。

音楽を愛すること。それは私にとって、愛する人々との出会いと喜びであり、空や太陽の恵み、月の光、風の香り、樹木や花々の歌、大いなる宇宙の歓喜と一体になり、感謝し、祝福を受けることです。

同じ志を持つサウンドヒーリング協会の、世界平和の貢献への事業活動に敬意を表し、益々のご発展を祈念致します。どうぞこれからも、愛する心のハーモニーを！記念誌刊行のお祝いの言葉と致します。



作曲家、マリンバ・ソリスト

Francois Du Bois

サウンドヒーリング協会の20周年、誠におめでとうございます。

作曲家、マリンバ・ソリストとしてパリから東京に来たばかりの23年前、喜田氏とのコラボレーションは始まりました。ヒーリングガーデン・レーベルから日本でのファーストアルバム、通算では13枚目の『オリジン』がリリースされ、日本とアジアでの新たなキャリアの章がスタートしました。それ以来、人が心身において充実した人生を実現することをサポートする、という、お互いに似た方向性と目的を持ってそれぞれの分野で活動を広げてきました。

8年ほど前にメディタという新たな音楽ジャンルを確立しました。瞑想に興味を持つ人が増えているにも関わらず、多くの人が上達できない壁にぶち当たるなどしている現実を目の当たりにしていたことがきっかけでした。目まぐるしい都市生活によるストレスやプレッシャーで、良質な集中力を引出しづらくなっているのが主な要因でしょう。

だからこそ、より簡単に瞑想状態になり深いリラグゼーションを得ることを目的としてメディタミュージックを創りました。リスナーに特別なトレーニング、知識や経験はいりません。ただ音楽を聴くだけで良いのです。ただし、その為にはクリエイター(この場合は私)がまず瞑想状態になり作曲、演奏をする必要があります。そして、音楽そのものが瞑想となるのです。作曲家は、身に着けてきた曲作りの為の知識や経験をすべて忘れ去り「そのアーティスト特有の音」と呼ばれるものだけを純粋に抽出するのです。

このアプローチは作曲家がアーティストとしてさらに高次元を目指す為のものであり、それにより新たな創造性の扉が開き、既存のスタイルでは絶対に得ることができなかった音の掛け合わせが誕生します。これがメディタミュージックの最大の魅力でしょう。

サウンドヒーリング協会もまた、この先の数十年で新たな扉を次々と開かれて行かれることを、心より楽しみにしております。Bon courage!



絵本作家・画家・詩人

葉 祥明

サウンドヒーリング協会20周年おめでとうございます。

人間で言えば成人式として祝うべきところです。

奇しくも、20周年の節目と新型コロナウイルスのパンデミックとが重なって、世界が騒然としているということと、これまでのサウンドヒーリング協会の活動は、深い所で密接な関係があるような気がしてなりません。

古来より人類の文明の大変化は、このような人間にとって制御することが困難な出来事がきっかけとなることが歴史に記されています。人類全体が未知の体験によって、その進化が促される。言葉を変えれば、人々が目覚め(・・・)ることによって、文明のパラダイムシフトが起こる可能性が出てきたのです。6500万年前の巨大隕石のユカタン半島直撃によって、恐竜のほとんどが死滅し、哺乳類が地上に姿を現わし、ノアの箱舟で知られている、大洪水が地上を変え、フランス革命によって長く続いた封建時代が終わり、第一次大戦、第二次大戦の大惨禍の結果で世界の地政が

大きく変わり、原子爆弾、原発によって文明の危機が訪れたように、コロナ禍によって現在、私達は地球と人類の大変化のさ中にいると言ってよいでしょう。ここでサイエンステクノロジーを自然で健全なものと調和させなくてはいけない、という気運が、人々の中に生まれつつある、いや、そうでなくてはならないと強く思います。政治、経済、文化、医学、人間自身の進化(それは取も直さず「意識」の進化)が始まる、このためにサウンドヒーリング協会があった！そんな気がします。物質の源、宇宙の根源は「音」、そして光です。音と光のエネルギー文明に人類は今やっと辿り着こうとしているのです。そのために、サウンドヒーリング協会の役割は大です。